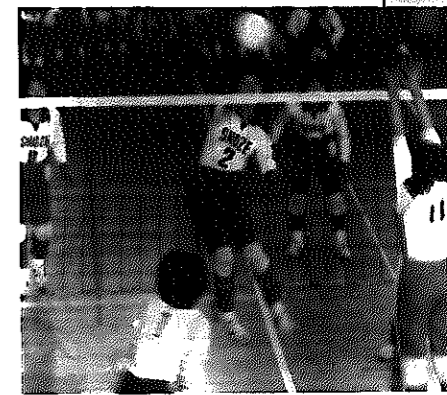


まちの話題



子供たちに伝統行事の味を
大郷小で「さいの神」

「子供たちの心の中に、雪国の一端の思い出を」と、小正月の伝統行事「さいの神」が一月二十四日、大郷小学校（万羽昭四校長）で行われ、百六十人の親子が楽しんでいました。父兄の協力で校庭に高さ四メートルほどの塔が作られ、さいの神の話を聞いたあとで年男、年女の六年生の手で塔に火が―行事は最高潮に達しました。竹のバチバチという音とともに赤い炎が勢いよく燃えさかり、子供たちの願いごとを書いた書き初めなどの作品を次々とのみ込んでいきました。

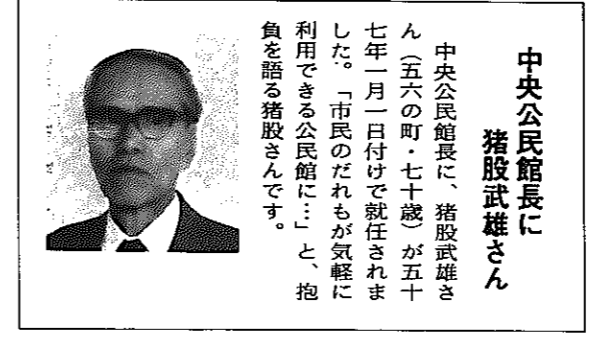


若さあふれる熱戦
中学生女子バレーボール大会

第十一回中学生女子バレーボール選手権大会が、一月十五日、白根高校など三会場で行われました。今年は県内各地から二十八校の強豪が出場し、若さあふれる熱戦をくりひろげました。試合は、中之島北中が優勝。市内の五つの中学校も善戦、白根一中が三位に入賞しました。

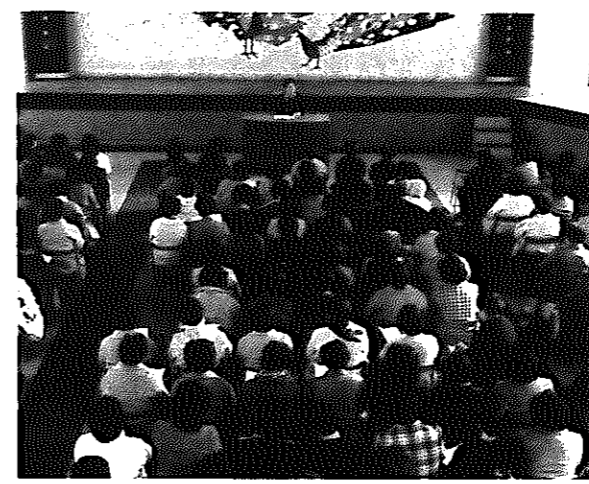
話す勇氣と発表する力を
婦人会活動の実績発表会

一月十七日、産業厚生会館で婦人会活動の実績発表会が行われました。これは日ごろ大勢の人前で話す機会が少ない婦人たちが、意見や体験を発表することにより、話す勇氣と発表する力を、毎年行われているものです。地区の代表九人が約三百人の婦人を前に、自分の意見を発表しました。「婦人会活動の問題点を探る」を発表した、小林地区の小林静代さんが市代表として下越ブロック発表会に出場します。



中央公民館長に
猪股武雄さん

中央公民館長に、猪股武雄さん（五六の町・七十歳）が五十七年一月一日付で就任されました。「市民のだれもが気軽に利用できる公民館に」と、抱負を語る猪股さんです。



市史
よもやま話

茨曾根支配(中)

清水の山田氏所蔵の文書に注意される記述がみえる。
「増補年表」
元和三年 東置場独立シ村ト
称ス
「清水沿革誌」
元和年間 東置場村独立政事ヲ取り分村セリ（公文書）
東置場村が親村を離れ一村立になったという伝承である。これに符合する文書(写)が関根家にあるが完全ではない。
①関根かたへ之足ま□の儀 其方手前者用捨仕候間 其心得可仕候 関根□右被下申渡候也 湯浅角左衛門

元和六年

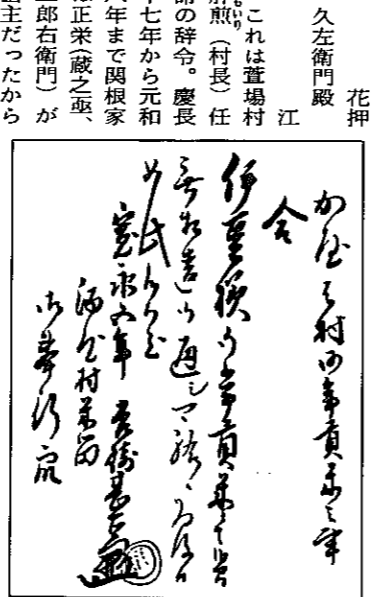
十月五日 林 茂兵衛 花押
村手宇右衛門 花押

かやは村 単人殿
これによると、親村の茨曾根村への足まい(実役?)を免除し、関根氏へも通知すると解される。

② かやは村肝煎申 付候間 用捨之事
拾五兩ノ 夫 銀
一 五兩ハ 荒地
一 足前百姓老人ニ付而式人 つか、使可申候
右之通遣シ候間 為後日如件 寛永式年 村手宇右衛門 三月十一日 花押 吉崎甚右衛門

伊豆様とは初代沢海藩主伊豆 御奉行衆 酒屋村米留 花押

久左衛門殿 花押
これは置場村 肝煎(村長) 任命の辞令。慶長十七年から元和八年まで関根家は正栄(蔵之丞、三郎右衛門)が当主だったから
①②とも同家に宛たものでない。
③ かやは村御年貢米之事 守(在任慶長十五年、寛永十一年) 領主への貢米運送のパスポート。
①の村手、②の村手、吉崎、相違御通シ可給候 為後日如 此候 以上 寛永五年 吉崎甚右衛門 花押
創立時に役人が新発田藩からスライドしたから、史料解釈がむずかしい。(つづく)



市民文芸

俳句

元旦の雪潔ふ降り神の庭
寒附の焦げる、厨故郷に來て
櫻の雫かがやく初日の出
池底の木の葉うごめき年の暮
神々のお礼新らし初詣
親鸞忌お講じまいや酒も出て
書初の手本が届いて年せまる
床の間に割れて坐るや鏡餅
新年に麦十歳の夢たくす
亡き戦友と中支を掛けて初寝覚
プラモデル買って余るお年玉
招かれるままの上座や歌留多読む
ふきのとう子等あらそって摘んで行く
初寝妻の手を借る冬がこい
石田 豊一
針貝 静男
西山 静江
中山 義英
長井 要平
坪川 桐太郎
田中 昭一
真保 清三
佐藤 勇一郎
牛嶋 七郎
佐野 タケ子
須戸 義夫
桑原 平一
小林 キミイ

川柳

運にまだ触れずくすぶる不発弾
初孫が帰った部屋に匂う乳
雨漏りのリズムに乗って孫踊る
墓地を賈う金を悲しい手に溜める
書き初めの口だけ師範格の父
ポーナスの太子一晩だいて寝る
孫かたりながら余生の小商い
帰宅した笑顔へ酒と妻が待ち
書き初めの暮間にうまいお茶を入れ
書き初めに祖母応援の墨を刷り
一服の紫煙の中で解けた謎
座禪くむ僧の背筋がしゃんと伸び
高橋 祐四雄
保科 盛広
米野 光雄
長井 徳市
中村 尚治
吉川 末吉
山岡 フミ
本間 吾朗
吉川 彰
成田 吉子
今井 七郎
岡村 清

短歌

赤軍の大量リンチ永田等の
求刑死刑とニュースは伝はり
織田 護

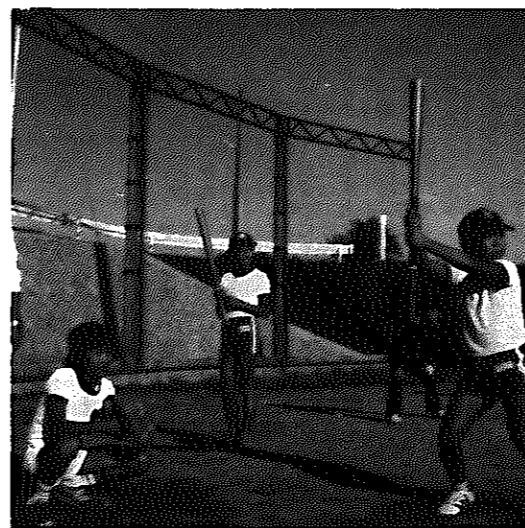
学校めぐり

読みとり力をアップ
国語科の共同研修を实践



白井小学校

白井小学校(青木幸雄校長 児童数二百二十人)は、明治六年九月開校以来、百八年の伝統をもつ学校です。教育目標は、自主性と実践力のある子供とかけ、その目標実現に向けきめ細かな教育指導が行われています。白井小では現在、国語科の共同研究が進められています。これは、子供たちの読みとりの力が不足していることから、各学年ごとに課題を設定し、豊かな読みとりにするにはどう指導したらよいかと、三年前から研究をはじめたものです。少しずつですが、その成果があらわれてきているそうです。また、子供たちの視野、心を広げるため市の行事はもちろん、作文などいろいろなコンクールにもなるべく全校で参加しています。PTA活動も活発で、文化祭のときに行う「ガラクタ市」は恒例になっています。父兄が家から不用品などをもち寄り即売会を―この売り上げは、子供たちがいろいろな活動を行うための資金として使われているそうです。大型車がひんばんに走る県道が通学路となっているため、学校・地域ぐるみで子供たちの交通安全対策には十分力を入れています。そのため、事故もなく、交通安全優良校として昨年、県知事から表彰されました。



野球、卓球、将棋などのクラブ活動も活発です



アザレア

アザレアは、さつきとともに白根市の特産花木です。日本古来からのさつきは、兎山、紅梅、日光など全部和名がつけられていますが、アザレアはちよつと違います。原産地はアジアですが、主にヨーロッパで改良されてから輸

入され、アンプロシヤナー、エリ、グレートルなどと、はいからな名前になっています。しかし、改名されたり、日本で育成されたものもあって、十二重、浜の粧、清姫など和名の品種も増えています。さつきは春めいてからつぼみがつき、六月に咲きますが、アザレアは秋から春までが花の季節になっています。一鉢の花がそんなに長いのはなくて、早中晩があるのです。早生はアンプロシヤナー、エリ、十二重などで、九月十月

咲きます。アンプロシヤス、ロイズネット、清姫は十一月十二月、グレートル、レオポルド、清姫は二―四月咲きます。白根のアザレア生産は、従来苗木養成が主体でした。近年は、鉢花の完成品としてつぼみがふくらんで、咲き始めたものを出荷するようにしてきました。冬の間は、たまに水をやるだけで一か月以上も花を見れます。白根産のアザレアを理解して、みんなで愛用し、宣伝したいものです。(白根農業改良普及所・井沢文也)



出荷直前のアザレア